

白老町地域公共交通活性化協議会

平成22年2月26日設置



別紙3

概要

人口減少や少子高齢化の進行に伴い、外出が困難な町民の増加が想定され、高齢者による運転免許証の自主返納が進む中で、公共交通のニーズは一層高まっています。現在、地域を網羅的に運行する公共交通システムは着実に構築されつつありますが、次の段階として、構築された公共交通システムを維持・発展させることが重要となります。公共交通システムの維持・発展にあたっては、本町の限られた財源を最大限に活用し、町民の多様なニーズに応える施策を展開することで、町民の生活の質の向上を目指します。

○地域公共交通の現況

- ・JR室蘭本線(社台駅、白老駅、萩野駅、北吉原駅、竹浦駅、虎杖浜駅)
- ・道南バス(登別苫小牧線)
- ・交流促進バス「ぐるぼん」(2路線)
- ・地域循環バス「元気号」(1路線)
- ・デマンドバス「カムイ号」(4区域)

○地域公共交通の課題

- ・町民の生活移動を支える公共交通の移動利便性の向上
- ・郊外部と市街地(まちなか)をつなぐ公共交通の充実及び効率化
- ・観光施設を周遊する交通の効果的な運行の見直し
- ・地域交通の積極的な利用を促す取り組みの継続実施
- ・地域一体で進める交通課題解決へ取り組み
- ・広域的な生活行動を支える広域公共交通の維持

○調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・町民意見交換会
- ・地域公共交通計画(案)の作成

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 5月17日 第1回協議会を书面開催
 - ・主な審議事項 事業計画案及び予算案
- 9月25日 第2回協議会を開催
 - ・主な審議事項 地域公共交通計画策定に向けた現況整理
- 1月21日 第3回協議会を開催
 - ・主な審議事項 地域公共交通計画素案、地域公共交通確保維持改善事業・事業評価、地域公共交通改正案



公共交通の概要



白老町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

○ 現況交通実態調査

・地域の現状(人口・世帯数等)及び町内地域公共交通の現状等を整理するほか、地域全体での交通サービスの維持に向けて、町内交通資源(運転手や保有車両等)についても事業者へのヒアリングを実施し、整理を行った。

【現況交通実態調査の結果(その1)】

整理項目	現状・問題点	課題
公共交通網	・交通情報を一元的に把握できる地域公共交通のガイドブックを作成しているが、町民から内容が理解しづらいとの意見	●町民にわかりやすい公共交通の情報提供
	・地域循環バス「元気号」は、虎杖浜地区から終着バス停の「町立病院前」までの移動に、約60分の所要時間が必要	●町内の交通利便性を確保
	・町内を網羅する公共交通が構築されている一方で、一部の町民から現行の公共交通の運行に不便との意見	
地域循環バス「元気号」	・運行便数の減便等に伴い、利用者数は減少しているが、1便当たりの利用者は減便前より増加	●地域循環バス「元気号」の利用ニーズに合った継続的な運行内容の見直し
	・整備士等の担い手の不足により、適切なメンテナンス対応が困難な状況	●担い手確保への対応
交流促進バス「ぐるぼん」	・地域循環バス「元気号」からの転換者や利用方法の周知、さらに町内観光施設を周遊する交通手段として観光客が利用していることから、利用者は増加傾向	●交流促進バス「ぐるぼん」の利用ニーズに合った継続的な運行内容の見直し ●利用者増加に対応した効率的な運行 ●観光客の動向を把握した効果的な運行
	・車両の使用年数の経過に伴い、総走行距離数が増加	●車両更新の検討
デマンドバス「カムイ号」	・地域循環バス「元気号」からの転換者や利用方法の周知により、利用者が増加傾向	●デマンドバス「カムイ号」の利用ニーズに合った継続的な運行内容の見直し ●利用者増加に対応した効率的な運行
	・非免許保有者の登録率が低い	●非免許保有者への利用促進策の検討
	・車両の使用年数の経過に伴い、総走行距離数が増加	●車両更新の検討

白老町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

【現況交通実態調査の結果(その2)】

整理項目	現状・問題点	課題
白老町内の 駅	・感染症の影響を受け、令和3年度の利用者数は減少傾向	●町内交通との接続性を確保
	・令和4年度以降は、感染症による行動制限の緩和に伴い、利用者数は復調傾向	
道南バス	・感染症の影響を受け、令和2年度の利用者数は減少傾向	●町内の広域的な移動に向けた地域間幹線 システムの維持 ●町内交通との接続性を確保
	・令和4年度以降は、感染症による行動制限の緩和に伴い、利用者数は復調傾向	
タクシー	・感染症等の影響を受け、令和2年度から利用者数は急激な減少	●観光客等の移動手段を継続的に確保
	・令和4年度以降は、感染症による行動制限の緩和に伴い、利用者数は復調傾向にあるが、感染症の影響を受ける前の水準には回復していない	
スクールバス	・少子化の影響で利用が減少傾向にあるものの、継続的に利用されている現状	●児童・生徒の移動手段を継続的に確保
福祉有償 運送	・本町の高齢化の影響で利用者が増加傾向	●移動困難者の移動手段を継続的に確保
公共交通に 係る経費	・町の移動支援に要している経費は、年間で約1億4千円となっており、今後も増加が見込まれる	●町内の交通資源を最大限に活用し、公共 交通に係る取り組みを見直し
	・交通に係る経費が年々増加している	

白老町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

○町民意見交換会

・白老町公共交通網の構築に向け、的確に詳細な住民ニーズを反映することを目的に、町民意見交換会を実施した後、分析、取りまとめを行った。

日時	会場	参加者	日時	会場	参加者
令和6年9月26日(木) 10:00~12:00	北吉原本町生活館	0名	令和6年9月26日(木) 13:30~15:30	萩野公民館	6名
令和6年9月27日(金) 10:00~12:00	虎杖浜生活館	15名	令和6年9月27日(金) 13:30~15:30	白老コミセン	5名
令和6年10月2日(水) 10:00~12:00	社台生活館	7名	令和6年10月2日(水) 13:30~15:30	竹浦コミセン	8名



意見交換会の様子(虎杖浜生活館)

【意見交換の項目】

- ① 現在、どのような移動手段(車、バス、JRなど)を使用していますか。
- ② 地域公共交通(元気号、ぐるぼん、カムイ号)の運行について、見直しが必要だと思いませんか。(運行路線、運行時間帯など)
- ③ ガイドブックなどの内容について、どのような情報が掲載されていると便利だと感じますか。また、見た目やデザインについても、どのような改善があるとより使いやすくなると思いますか。

【町民意見交換会の結果】

整理項目	現状・問題点	課題
地域循環バス 「元気号」	・虎杖浜地区では「買い物や病院が一番の目的であり、このような目的を果たすために、元気号に乗りした場合、あまりにも時間がかかるため改善してほしい」などの意見。 など ⇒ 現行の運行と移動ニーズのミスマッチが生じている	・利用ニーズに合った運行内容の見直し
交流促進バス 「ぐるぼん」	・観光客の利用を踏まえた意見として、「ぐるぼんは観光周遊バスであるため、一般の町民が利用するには不便」や逆に「観光周遊バスと住民用のバスは分けた方が良いと思う」との意見。 など ⇒ 観光周遊としての役割が不明確となっている	・運行目的の再確認による運行内容の見直し
デマンドバス 「カムイ号」	・虎杖浜地区では「白老生活館」、竹浦地区では「竹浦郵便局」に移動できないことが不便だと感じる意見があるほか、白老地区では「行きたい場所に行けなくて不便」、萩野地区では「各運行区域内の移動を可能にしてほしい」などの意見。 など ⇒ 現行の運行と移動ニーズのミスマッチが生じている ・「カムイ号を利用したいが、利用方法がよく分からない」などの意見。 など ⇒ 利用方法の周知が不足している	・利用ニーズに合った運行内容の見直し
利用促進等	・ガイドブックを見ても「自分がどこで乗るべきか分からない」や「数字が羅列されていて抵抗感を抱いている」との意見。 など ⇒ 理解しにくいことが原因でガイドブックが利用されていない ・ガイドブックの改善についての意見として、「運行内容の変更理由も公表してほしい」や「乗り継ぎに関するQ&Aを掲載してほしい」などの要望。 など ⇒ 住民が知りたい情報が不足している	・公共交通の利用に関する周知の工夫

白老町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

○地域公共交通計画(案)の作成

・下図の公共交通のあり方をベースに計画の方向性及び施策検討を今後、継続して実施し、令和6年度中に白老町地域公共交通計画(案)として取りまとめを行う。

白老町の公共交通のあり方



○協議会の開催

・地域公共交通計画(案)の検討・協議を主な議案とした協議会を開催(R6年度中に全4回の開催を予定)。

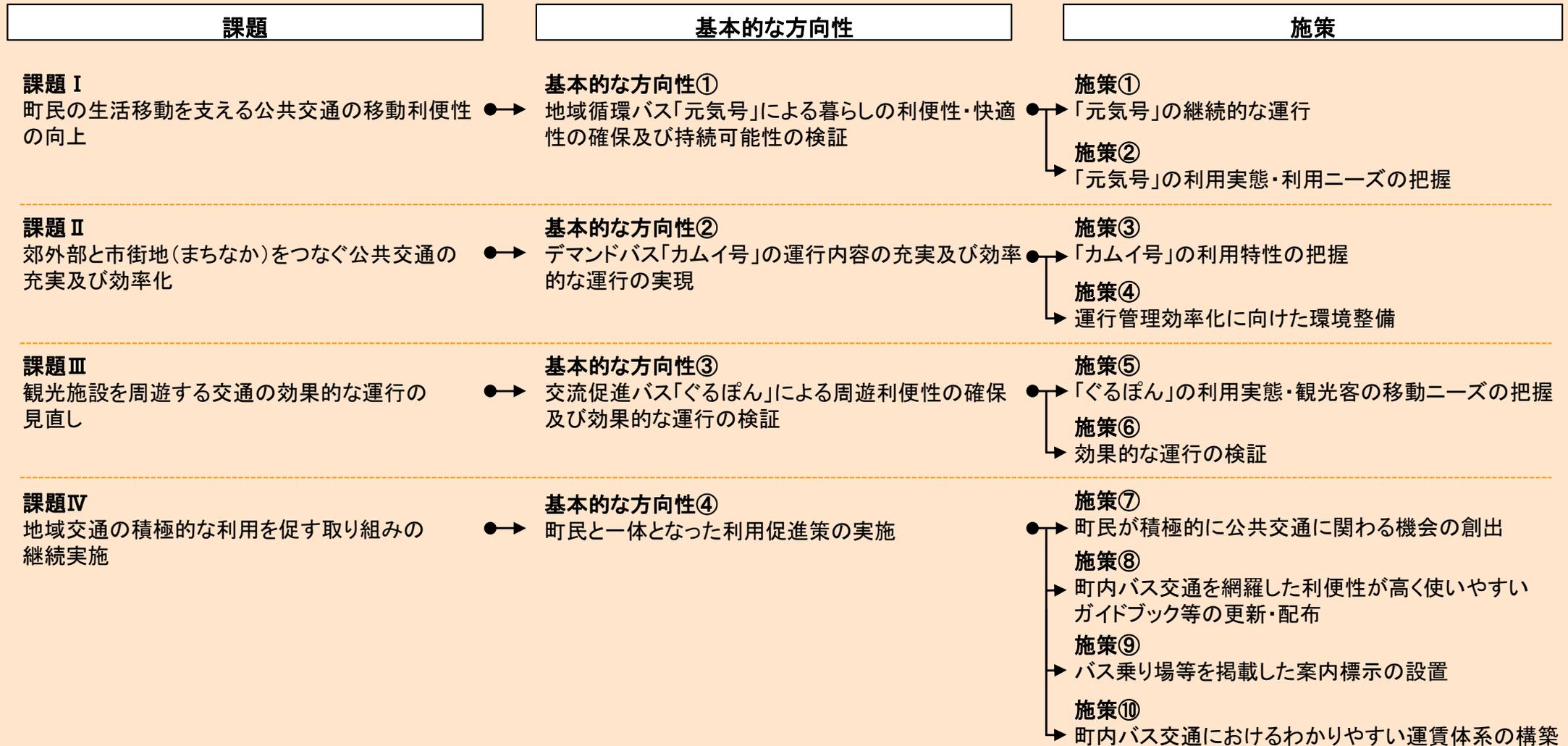
白老町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

●基本理念

まちの魅力や特性を最大限に活かした、持続可能な公共交通システムの維持・発展
～ 地域のつながりを強め、みんなで暮らしの質を高める ～

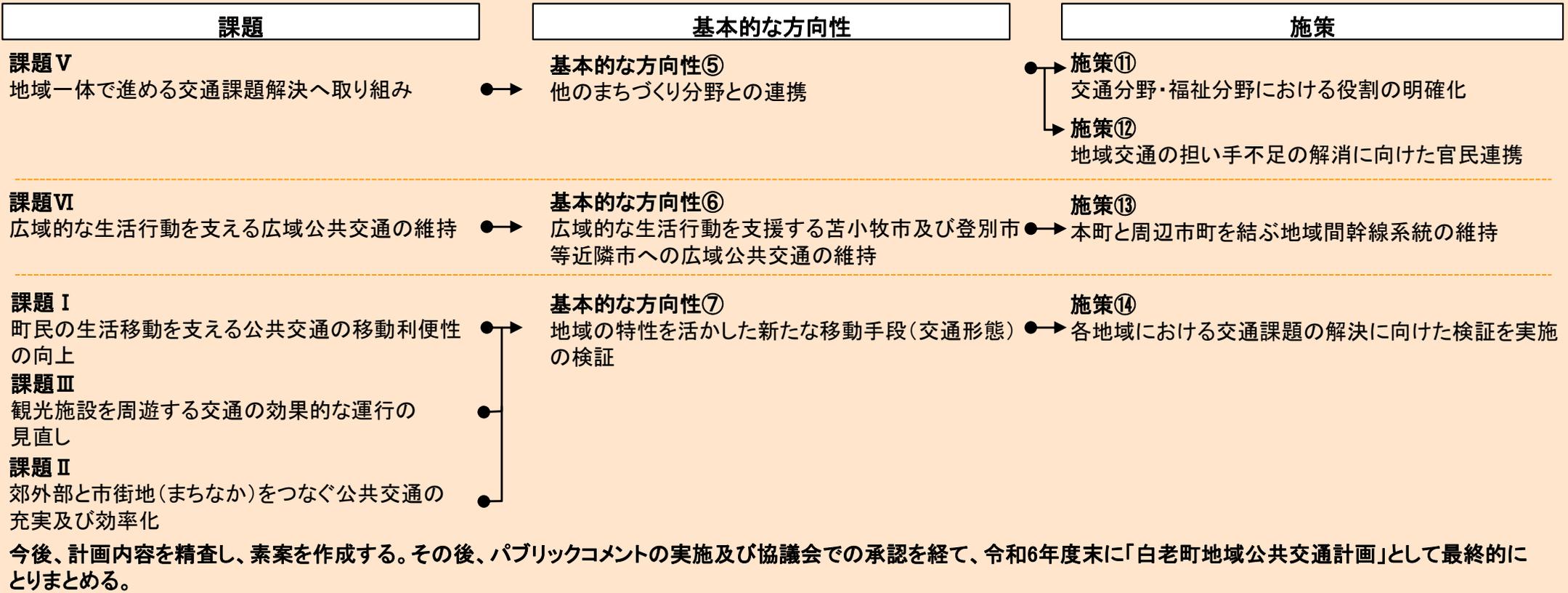
●課題・基本的な方向性・施策のフロー(その1)



白老町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

●課題・基本的な方向性・施策のフロー(その2)



●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施されている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・地域公共交通網形成計画の見直しでの調査であったが、状況の変化に対して多様な関係者からの意見も参考に調査結果をまとめることは大変だと思うが、今後も引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただくとともに、調査から得られた課題等を反映した地域公共交通計画をぜひ策定いただきたい。